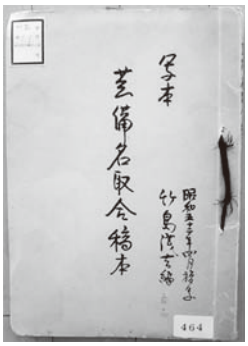
ふるさとふちゅう 再発見

【第69回】府中が農村だったころ（29）～芸備名取合

前回、府中の白蕎麦（白瀧蕎麦）が「芸備名取合」という資料に記述されていると紹介しました。この書物は、広島城下で眼科医をしていた二宮五礼が記したものです。五礼は俳句の作者としても知られた人物で万延元（１８６１）年に71歳で亡くなりました。名取合とは評判を争うという意味で、診察に来た人々から聞いたさまざまな話を、相撲の番付のように2つのものを並べて紹介しています。ただ、残念ながら現在、五礼が記した原本は戦災で焼失し、見ることはできません。戦前に原本を筆記した写本が残っているだけです。原本には、紹介した名産・名所などに五礼が俳句を付けていたとありますが、写本では省略されています。

蕎麦の他に府中村に関するものをいくつか紹介しましょう。府中村の白瀧蕎麦は吉浦（呉市）の素麺に対するものと紹介されています。現在、吉浦で素麺を製造している会社は確認できません。安芸郡の府中葱（ねぎ）に対する野菜は佐伯郡麦谷村（現広島市佐伯区湯来町大字麦谷）の蕪です。この項目には説明も残されており、「府中村葱は白根二尺余（約60ｃｍ）至て風味よし　葱焚や戸口は昼と思う月　佐伯郡麦谷村の蕪は大の分は三尺廻り小は二尺廻り何分にも色白く別てやわらかなり　蕪汁」と紹介されています。

名品だけでなく名所や伝説も紹介されています。「安芸郡　五左層（原文のママ）府中村に有りて高き山也、同阿弥陀ケ峯　新山日通寺の岡（現広島市東区牛田新町）をいひけり」と山があり、「安芸郡府中村　出合清水　同所今出川」と清水の名所は2か所とも府中村です。府中村道隆寺に伝わる笠は百人一首の作者の一人伊勢がかぶせたと伝えるとあり、同郡畑ケ村品秀寺（広島市安芸区畑賀）の弘法大師の由来の杖と並べています。



芸備名取合の写本

府中町文化財保護審議会　委員　菅　信博

魅力発信! まち記者レポート　大学生が府中町の魅力発信を体験実践

澤 和希 さん
田中 結希 さん

広島修道大学の実習で、私の卒業校である府中中学校へインタビューに行ってきました。近年、数々の大会で好成績を残している同校サッカー部。その強さの背景には、サッカーの技術だけでなく、挨拶をはじめ、人としての基礎を大切にする指導があります。また、学校全体から応援される部活動を目指し、10年後、20年後にもみんなが集まれるようなチームづくりを目指しているそうです。競技の結果だけを追うのではなく、人として成長できる環境を大切にしていることが伝わってきました。今回のインタビューを通して、私自身も教え子の一人として、サッカーだけでなく多くの大切なことを教えてもらっていたのだと改めて感じました。（澤）


恩師にインタビューできました（澤）

広島修道大学の体験実践で、府中町政策企画課の業務を体験しました。中でも印象に残っているのは、「来て見て乗ってみん祭」に参加したことです。私は広島市に住んでいるので府中町になじみがなく、最初は不安でしたが、子どもたちがキックターゲットなどの遊びを楽しんでいる姿を見ると楽しい気持ちに変わりました。他にも揚倉山再整備のためのたる募金や府中つばき祭り開催の宣伝など、府中町の魅力を知ってもらう取り組みを行いました。政策企画課だけでなくさまざまな部署が府中町のPRを行っていることを知り、まちを知ってもらうための広報が重要だということを実感しました。（田中）


子どもたちとイベントを楽しみました（田中）